



TITLE:

此の頃小望遠鏡で面白い星

AUTHOR(S):

NK

---

CITATION:

NK. 此の頃小望遠鏡で面白い星. 天界 1922, 3(25): 30-30

ISSUE DATE:

1922-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159808>

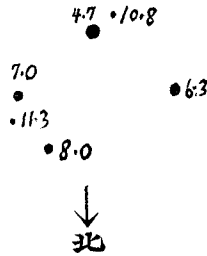
RIGHT:

# 此の頃小望遠鏡で面白い星

N K 生

オリオン座の大星雲 M四十二番  
赤徑五時三十一分赤緯南五度二十六分

オリオン座第一の望遠鏡で美しい所で星雲や二重星が一所にかたまつて居る。星雲は三つ星の東端のくの少し南に三つの小さな星が並んで居る中央の星の周りにある。即ちθの周りである。肉眼でも月の



無い夜にはぼんやりとしたものが見える。双眼鏡で見ると大きな星雲である事が分かり又θが二重である事も分かる。θは肉眼でも目の鋭い人には二重である事が知れる。距離は二分十五秒。三時の望遠鏡をりしに向けるさ、實に美事な星雲が見える

丁度りゝの所で口を開けた魚の口の様である。三時でも少し大きな倍率を使ふと星雲の明るい部分は随分複雑な形をして居り七時であれば少々物すごく感じる。三時であればりゝ一つの星でなく四重星で梯形をなして居る此れが有名な *Trapezium of Orion* である。倍率を少し高くすると都合がよいとも二つ極く小さい星が見える。此の星雲の北数箇の星がかたまつて居るがよく注意すると淡い星雲が其の上に見える。此のすぐ北に一つの星群が見つかる。星数は少ない

アンドロメダ座γ (三重星)  
赤徑一時五十九分赤緯四十一度五十一分

最も美しい二重星の一つで良好な一時で二重である事が分かる。主星は二・三等で黄色で伴星は五・一等の美しい青色星で兩星の距離は十・

五秒で位置角は六十三度である。伴星は千八百四十二年に二重なる事が発見された。周期五十五年の連星で距離は最大で〇・六五秒であるから分離する爲には少なくとも八時の望遠鏡を要する。良好なる四時から二百倍にて明らかに伴星の長いのが分かる。

北極星 二重星

赤徑一時三十二分赤緯北八十八度五十三分

二等星と九等星の離れた重星である。位置角は二百十度距離は十八秒である。伴星は九等星であるから一時でもたゞ一つあれば見えるのであるが近くに二等星があるので小望遠鏡では見えない。通常伴星を認める爲には少なくとも三時を要する。四時なれば容易に見る事が出来る。七時であれば明瞭な伴星が見える。總て此の種の大小差の大きい二星が近づいて居る場合には時につき二十倍位がよく高倍率は適せぬ。二時乃至三時の望遠鏡の適當な試験星である。主星は週期約四日のケフェウスδ種變光星である。

## 口繪説明

クロスレー 反射望遠鏡

米リツク天文臺の此の有名な三呎反射望遠鏡は中々いはいれつきの器械である。反射鏡は有名なカルバー氏の製作である。コンモン氏は此れを使用して星雲の寫眞に成功し一八八四年英國王立天文學會から金メダルを得た。一八八五年コンモン氏は更に大なる望遠鏡を得る爲にハリファックスのクロスレー (Crossley) に賣つたが空氣が悪くて思はしくなかつたが其後當時のリツク天文臺長ギールデン氏の請により同氏よりリツク天文臺に寄贈せられ一八九八年よりキーラ氏により主として星團星雲の寫眞に使用せられ其の多くの美事な寫眞はリツク天文臺年報第八卷に發表されて居る。近年にはカーチス氏が寫眞に使つた。リツク天文臺に据付け後器械に不完全な所があり器械部を新に作り口繪に見る様な美事な大體英國型の赤道儀にされた。反射鏡は口徑三十六吋焦點距離十七呎七吋である。(NK)